令和６年 12 月８日（日）≪午前≫
第 13 期研修生（Ａコース及びＢコース）　「リーダーシップ③」

本研修は、ＳＤＧｓカードを用いたチームビルディングワークショップを行うことを通じ、ＳＤＧｓを自分ごととして捉え、社会に貢献・活躍するリーダーとしての意識を醸成するとともに、世界で活躍するリーダーシップを身に付けるために必要な視座を高め、より広い視野で世界を感じ、捉えられるようになることをねらいとしています。

前半のＳＤＧｓカードを用いたチームビルディングワークショップの主な目的はＳＤＧｓに関する知識を深めることではなく、「なぜＳＤＧｓが世界で必要とされているのか」及び「ＳＤＧｓを設定することによる効果」を考えることです。

研修生たちは、前半のワークショップを通じ、「経済」「環境」「社会」それぞれの関係性について考えました。「環境に関する目標」が十分に達成されなければどのような世界になってしまうのか。「社会に関する目標（ジェンダー平等、教育など）」が十分に達成されなければどのような世界になってしまうのか。ファシリテーターに木村 大輔さん（ＧｉＦＴダイバーシティファシリテーター）をお招きし、ＳＤＧｓを自分事として研修生たちは考えることができました。

後半のワークショップでは、前半で行ったＳＤＧｓカードを用いたワークショップで学んだ合意形成やリーダーシップについて振り返り、改めてその内容について考えました。ワークショップで、自分が感じたことを同じグループの仲間とシェアし、チームとしてワークショップの際に行動したことを振り返り、自分のチームが何に貢献できたのかを話し合いました。さらに、自分自身のリーダーシップを振り返った上で、チームのリーダーシップについて言語化しました。

最後に、2030 年に向けての自分のアクションについて、自分自身へのアクションと、周りに対するアクションを言語化することを試みました。全て英語で行われた研修でしたが、研修生は一生懸命取り組み、留学先でおそらく経験するであろう同様の研修や授業を体験する良い機会にもなったようです。まとめの感想の共有の時間には、自ら手を挙げた代表の生徒が流ちょうな英語で発表する姿があり、とても頼もしく感じられました。

令和６年 12 月８日（日）≪午後≫
第 13 期Ａコース研修生　「ゼミナール③」

今回は、第２回ゼミナール研究で行ったゼミナール研究アウトラインの協議内容を踏まえ、各自が再検討した研究アウトラインをグループで発表して協議しました。

ゼミナール研究は次のように進めました。

(1) 再検討した研究アウトラインを一人ずつ発表する。

(2) 発表に対してグループの成員が＜問題点・疑問点＞、＜優れた点等＞

を指摘する。

(3) 発表者は指摘を受けた問題点や疑問点について答え、グループ全員で改善点等について意見交換する。

今回のゼミナール研究では、研究テーマが焦点化され明確にされているものが多く、研究仮説も磨かれていました。そのため、研究仮説を実証するアンケートやインタビューの内容なども発表、協議でき、内容が充実したものになりました。今後のゼミナール研究の深まりにつなげることができました。

研修生の「ゼミナール研究振り返りシート」には、インタビューの対象、内容、実施計画など今後の取組を具体的に記入しているものが目立ちました。研修生はゼミナール研究の見通しを明確にしている様子がうかがえました。